

平成26年度 実践報告 埼玉県でのリハビリテーション専門職の活用

埼玉県密着アドバイザー 岡持利巨

- 国の提示した仕組み
- 埼玉県独自の仕組み
- 県密着アドバイザーとしての取り組み

新しい介護予防事業

- 機能回復訓練などの高齢者本人へのアプローチだけではなく、地域づくりなどの高齢者本人を取り巻く環境へのアプローチも含めたバランスのとれたアプローチができるように介護予防事業を見直す。
- 年齢や心身の状況等によって分け隔てることなく、住民運営の通いの場を充実させ、人と人とのつながりを通じて、参加者や通いの場が継続的に拡大していくような地域づくりを推進する。
- リハ職等を活かした自立支援に資する取組を推進し、介護予防を機能強化する。

現行の介護予防事業

一次予防事業

- ・ 介護予防普及啓発事業
- ・ 地域介護予防活動支援事業
- ・ 一次予防事業評価事業

二次予防事業

- ・ 二次予防事業対象者の把握事業
- ・ 通所型介護予防事業
- ・ 訪問型介護予防事業
- ・ 二次予防事業評価事業

一次予防事業と二次予防事業を区別せずに、地域の実情に応じた効果的・効率的な介護予防の取組を推進する観点から見直す

介護予防を機能強化する観点から新事業を追加

一般介護予防事業

・ 介護予防把握事業

地域の実情に応じて収集した情報等の活用により、閉じこもり等の何らかの支援を要する者を把握し、介護予防活動へつなげる。

・ 介護予防普及啓発事業

介護予防活動の普及・啓発を行う。

・ 地域介護予防活動支援事業

地域における住民主体の介護予防活動の育成・支援を行う。

・ 一般介護予防事業評価事業

介護保険事業計画に定める目標値の達成状況等の検証を行い、一般介護予防事業の事業評価を行う。

・ (新) 地域リハビリテーション活動支援事業

地域における介護予防の取組を機能強化するために、通所、訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議、住民運営の通いの場等へのリハビリテーション専門職等の関与を促進する。

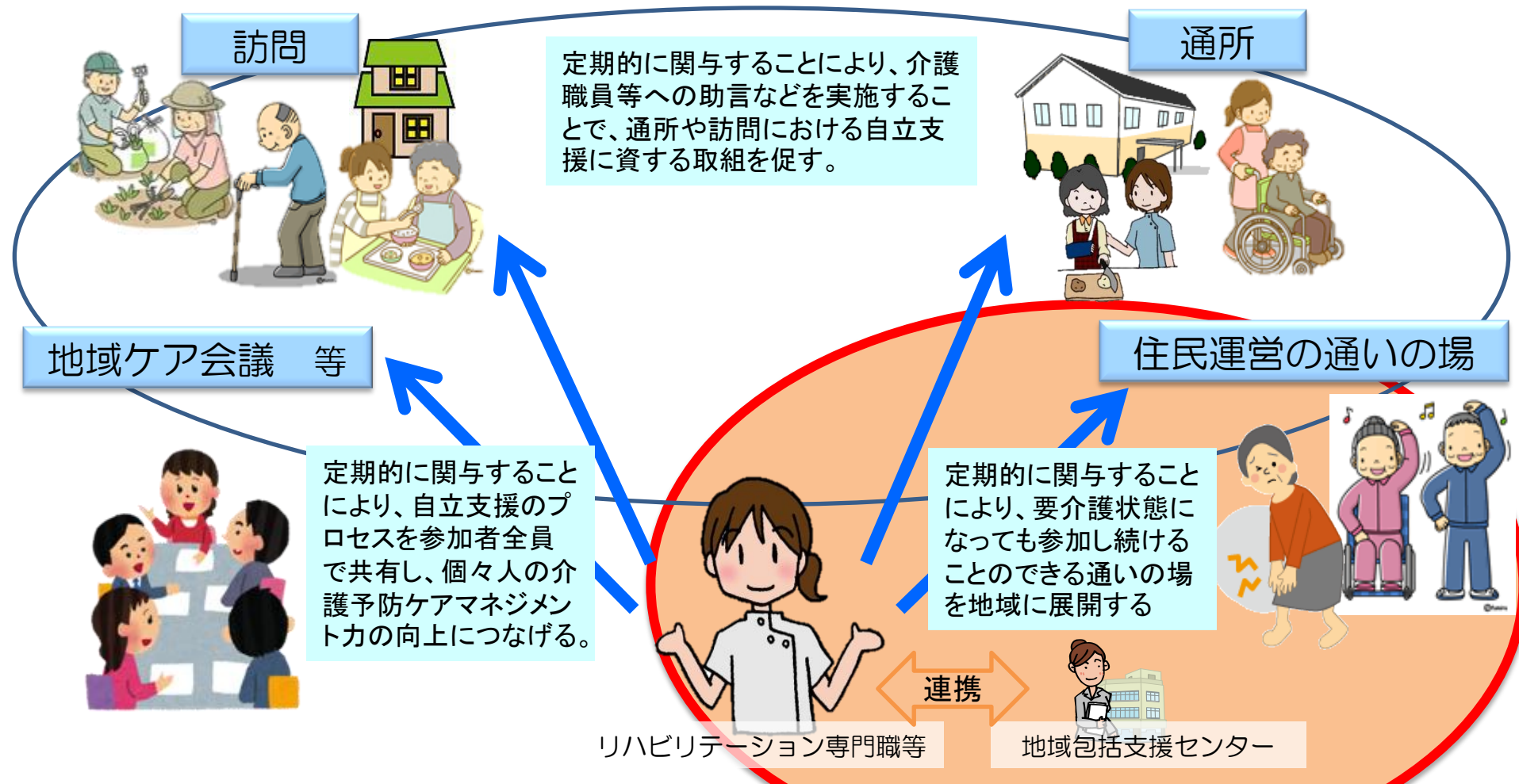
介護予防・生活支援サービス事業

介護予防・日常生活支援総合事業

※従来、二次予防事業で実施していた運動器の機能向上プログラム、口腔機能の向上プログラムなどに相当する介護予防については、介護予防・生活支援サービス事業として介護予防ケアマネジメントに基づき実施

地域リハビリテーション活動支援事業の概要

- 地域における介護予防の取組を機能強化するために、通所、訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議、住民運営の通いの場等へのリハビリテーション専門職等の関与を促進する。



リハビリテーション専門職等は、通所、訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議、住民運営の通いの場等の介護予防の取組を地域包括支援センターと連携しながら総合的に支援する。

せっかく作ってもらった 仕組みを活かすには??

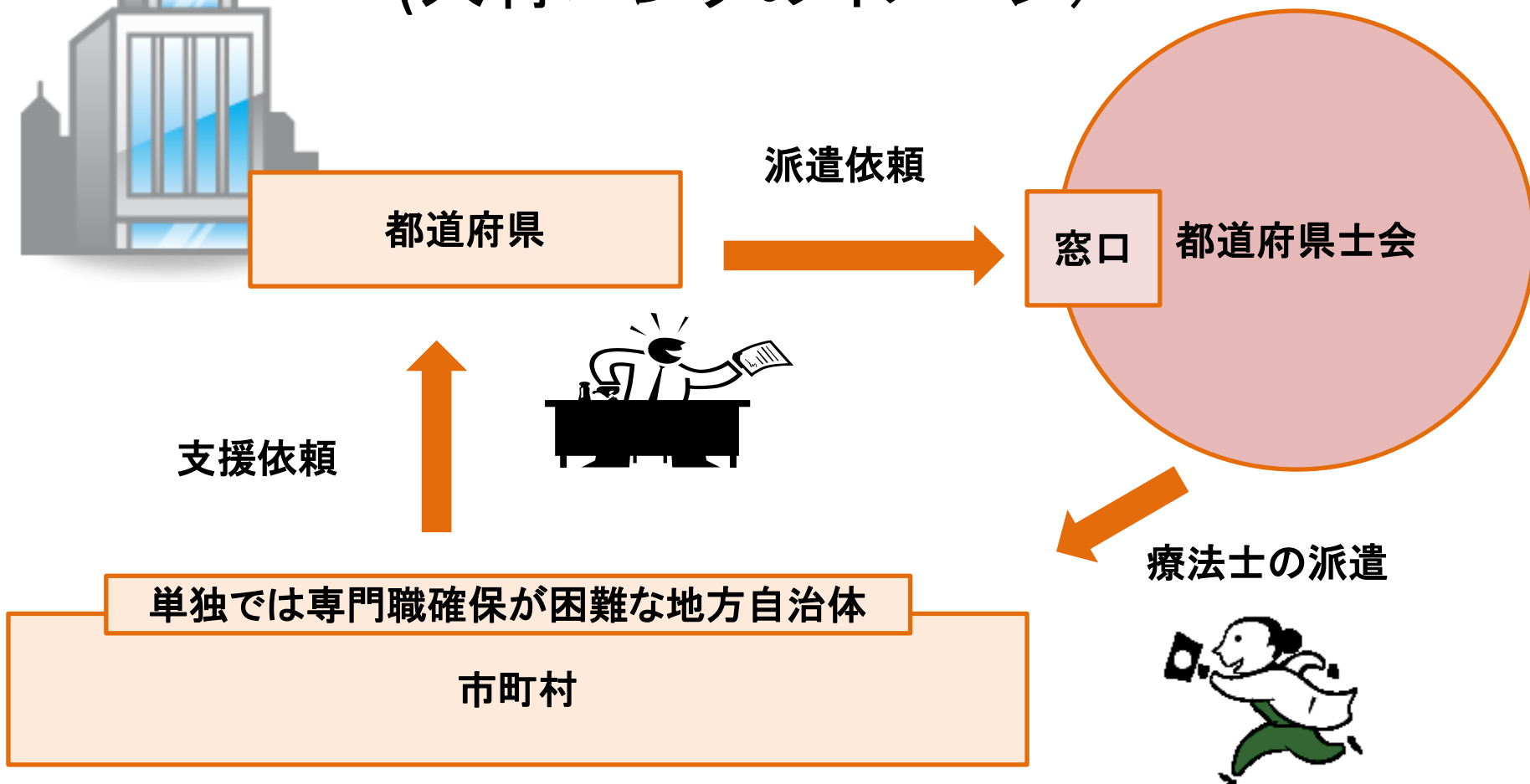
(新) 事業を活用してもらうために
療法士を活用してもらうために



療法士アドバイザーとして
後方支援になるようなサポート

- 国の提示した仕組み
- 埼玉県独自の仕組み（療法士側から）
- 県密着アドバイザーとしての取り組み

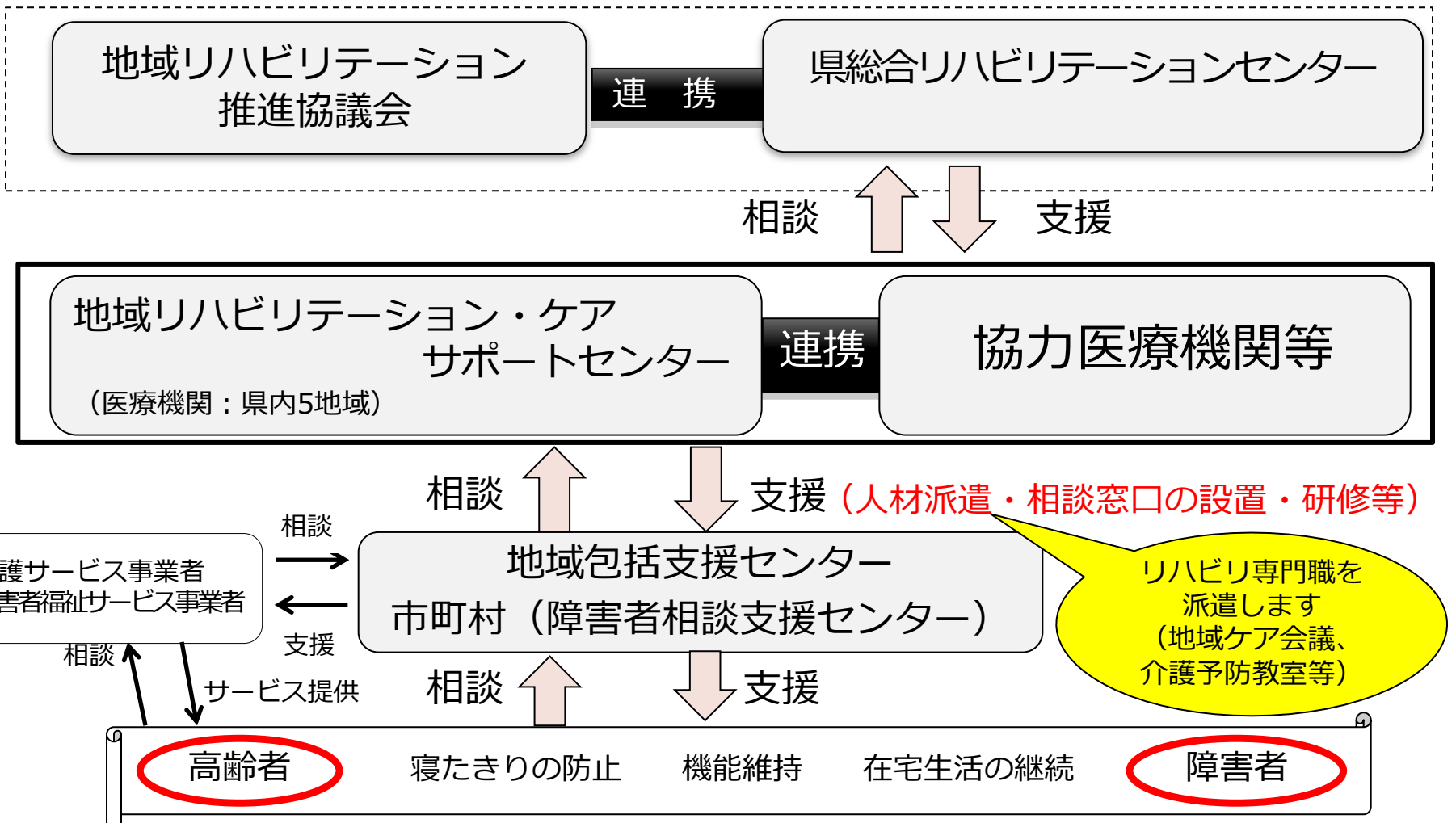
リハビリテーション専門職などの広域派遣調整 (人材バンクのイメージ)



地域において自立支援に資する取組を推進するにあたって、単独では専門職の確保が困難な地方自治体を支援する。

地域リハビリテーション支援体制について

高齢者や障害者の様々な状況に応じたリハビリテーションサービスが、より身近な地域で適切に提供されるよう、県総合リハビリテーションセンター、サポートセンター（医療機関）が中心となって、リハビリ専門職と連携して地域包括支援センター等への支援を行う。



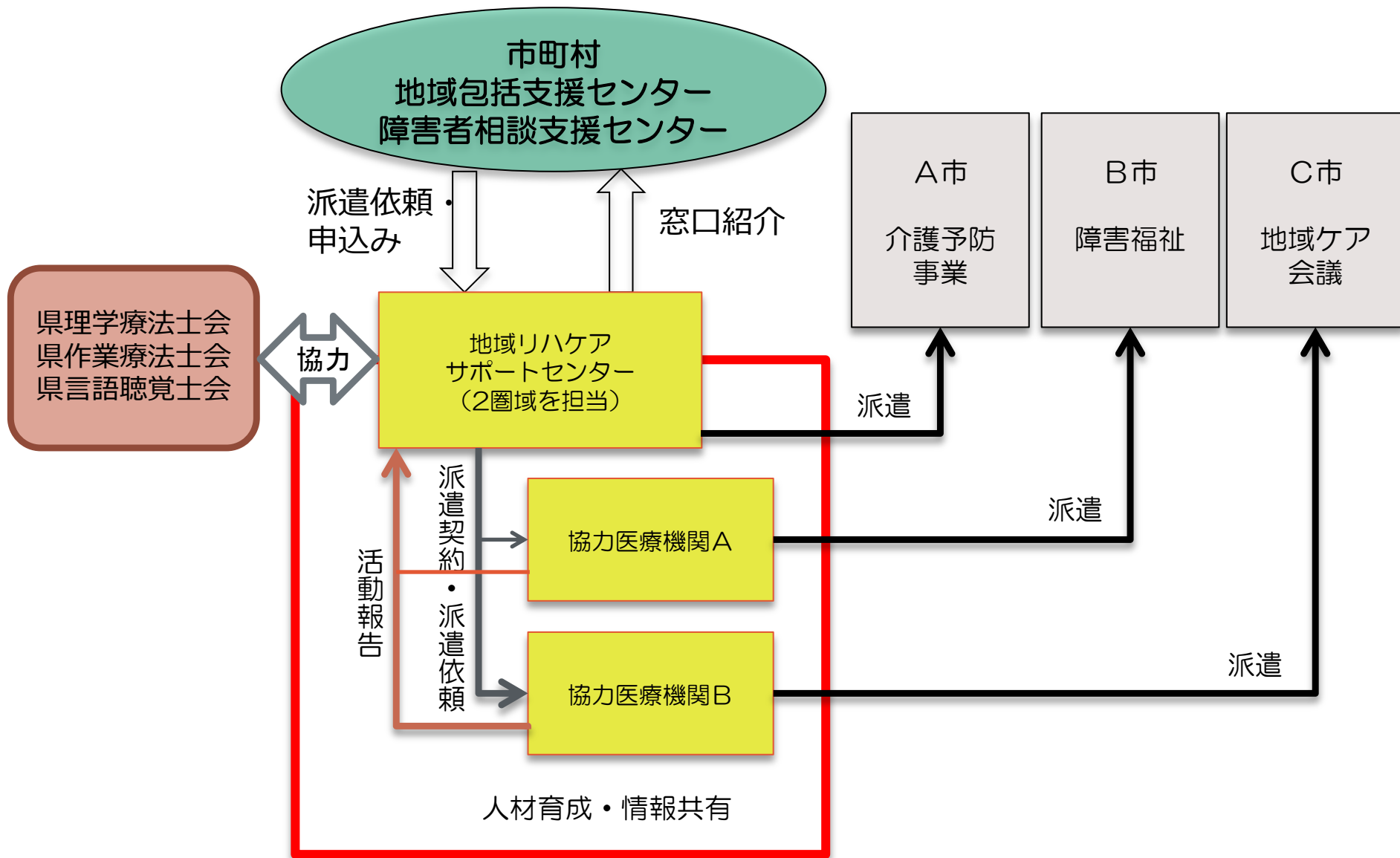
各圏域での協力体制：協力医療機関等の指定

埼玉県63市町村（40市22町1村）に106ヶ所（3月1日現在）



政令指定都市：さいたま市
中核市：川越市
特例市：熊谷市、川口市、所沢市
越谷市、草加市、春日部市

埼玉県における 療法士派遣に関するフロー図



リハ職の活用例

1. 介護予防事業等での参加者の運動機能やADL等の評価支援
2. 介護予防ボランティア養成、介護者サロン等への協力・相談支援
3. 地域ケア会議、ケース検討会でのリハビリテーションの視点からの協力・相談支援
4. 各種研修会の講師 など

*その他：連絡調整・事業打合せ（出張・電話）等

地域づくりによる介護予防事業

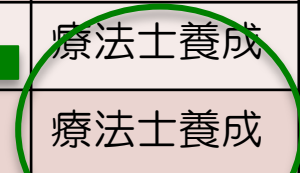
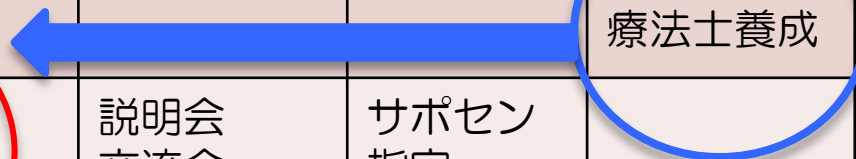
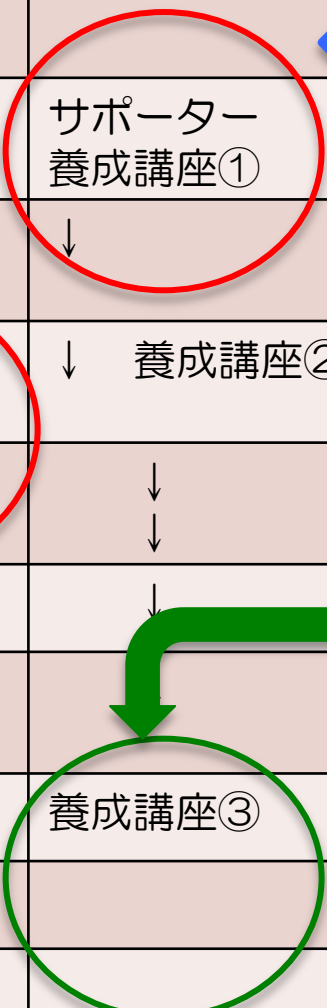
地域リハ支援体制整備事業

国：
モデル事業

市町村：
毛呂山町での事業

県：
地域リハ事業

4月	厚労省研修会					
5月	アドバイザー 会議	打合せ		推進協議会	サポセン 指定	
6月		打合せ				療法士養成
7月			サポーター 養成講座①	説明会 交流会	サポセン 指定	
8月	現地支援		↓	↓	協力機関 指定	
9月		自主G：3	↓ 養成講座②	↓	↓	サポセン 会議
10月	アドバイザー 会議	↓ ↓	↓ ↓	↓	↓	
11月		↓ 自主G	↓	↓	↓	療法士養成
12月	現地支援	体力 測定	↓ ↓	市町村説明 (西部地区)		療法士養成
1月			↓ 養成講座③	市町村説明		療法士養成
2月						療法士養成
3月	報告会					療法士養成

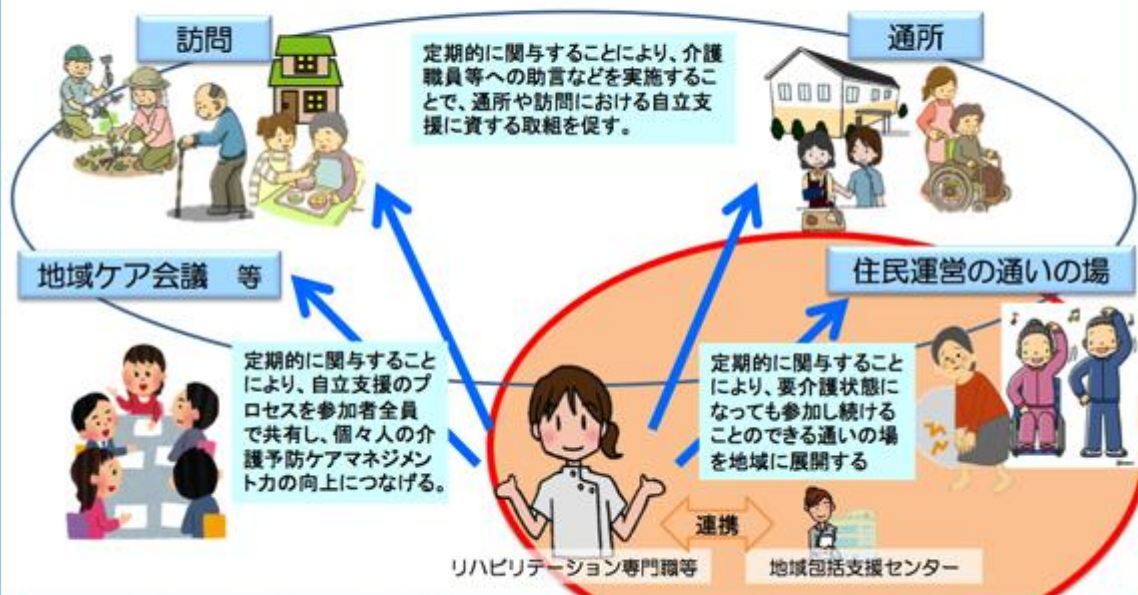


平成26年度 派遣等の実績

派遣回数 344件 (延545名)

地域リハビリテーション活動支援事業の概要

○ 地域における介護予防の取組を機能強化するために、通所、訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議、住民運営の通いの場等へのリハビリテーション専門職等の関与を促進する。



リハビリテーション専門職等は、通所、訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議、住民運営の通いの場等の介護予防の取組を地域包括支援センターと連携しながら総合的に支援する。

地域ケア会議
事例検討会等

43件
(延63名)

その他の会議
研修会等

61件
(延89名)

介護予防教室
等
(体操教室等)

175件
(延255名)

介護予防
ボランティア
養成講座

65件
(延138名)

- 国の提示した仕組み
- 埼玉県独自の仕組み
- 県密着アドバイザーとしての取り組み

モデル事業で経験したこと

1. 広域アドバイザーからの学びを元に、埼玉版への昇華
 - － 印西市の見学、資料の提供、準備段階での相談・助言
2. 県職員から町職員への熱意の伝搬
3. 資源を活かして、新しい仕組みの提案
4. 現場レベルでのトライアンドエラーの繰り返し
5. 経験から派生して、新たな工夫が生まれる
6. モデル事業の経験を共有（他市の職員・療法士へ）
7. 手伝ってくれる人を増やす作業

モデル事業で経験したこと

1. 広域アドバイザーからの学びを元に、埼玉版への昇華
2. 県職員から町職員への熱意の伝搬
3. 資源を活かして、新しい仕組みの提案
4. 現場レベルでのトライアンドエラーの繰り返し
5. 経験から派生して、新たな工夫が生まれる
6. モデル事業の経験を共有（他市の職員・療法士へ）
7. 手伝ってくれる人を増やす作業

埼玉県

理学療法士

毛呂山町
保健師

住民

6月：住民への説明会





県担当者のプレゼンに乗り出す住民

モデル事業で経験したこと

1. 広域アドバイザーからの学びを元に、埼玉版への昇華
2. 県職員から町職員への熱意の伝搬
3. 資源を活かして、新しい仕組みの提案
4. 現場レベルでのトライアンドエラーの繰り返し
5. 経験から派生して、新たな工夫が生まれる
6. モデル事業の経験を共有（他市の職員・療法士へ）
7. 手伝ってくれる人を増やす作業

6月：従来の介護予防との 整合性に悩む



町に元々ある資源を視察
ボランティア
教室



住民主体の
通いの場を発展させる
方法を相談



モデル事業で経験したこと

1. 広域アドバイザーからの学びを元に、埼玉版への昇華
2. 県職員から町職員への熱意の伝搬
3. 資源を活かして、新しい仕組みの提案
4. 現場レベルでのトライアンドエラーの繰り返し
5. 経験から派生して、新たな工夫が生まれる
6. モデル事業の経験を共有（他市の職員・療法士へ）
7. 手伝ってくれる人を増やす作業

7月～9月：
毛呂山町介護予防ボランティア
養成講座



提供メニューを正しく知る



町や担当者の熱意を伝える

課長
も
がんばる



毛呂山町 町をあげての 活動へ

- 広報もろやま
- ゆずの里
ケーブルテレビ
- イベントで紹介
- 講演

ゆずっこ元気体操を はじめましょう！

～ 体操で みんな 元気に ～

ゆずっこ元気体操は、重りを使った簡単な体操です！

元気な人も、そうでない人も、誰でもできるように工夫された体操です。しかも、全国各地でみんな効果が出ています。

週に1～2回程度、地域の集会所で運動をします！

地元の集会所で、お友達のあの人も、顔見知りのあの人も、一緒にやって、みんなで楽しく元気に！

地域の皆さんで盛り上げていく活動です！

全国約50市町村、約1500地区で自主的に集まって体操。活動地区は増え続けています。

体操は手首や足首に重りをつけて、ゆ
っくり上げ下げするだけで、
すごく簡単だよ！
ひとりじゃダメだけど、
みんなと一緒に続けられるんだ。
3カ月間がんばって続けて、
元気になるう！



毛呂山町マスコットキャラクター
もろ丸くん

ゆずっこ元気体操についてのお問い合わせは
毛呂山町地域包括支援センター

049-295-2112 内線118・156・157

〇〇地区 ゆずっこ 元気体操 スケジュール

- 町と療法士
がお手伝い

	内 容	スタッフ	サポーター
★	説明会	町職員	
1週目	事前評価 (体力測定)	理学療法士、町職員	
2週目	運動 1回目	理学療法士、町職員	3~4名
3週目	運動 2回目	町職員	3~4名
4週目	運動 3回目		3~4名
5週目	運動 4回目		3~4名
6週目	運動 5回目		3~4名
7週目	運動 6回目		3~4名
8週目	運動 7回目		3~4名
9週目	運動 8回目		3~4名
10週目	運動 9回目		3~4名
11週目	運動 10回目		3~4名
12週目	運動 11回目		
13週目	運動 12回目		
14週目 (3か月後)	事後評価 (体力測定)	理学療法士、町職員	運動継続の意思確認
6か月後	事後評価 (体力測定)	理学療法士、町職員	
9か月後	事後評価 (体力測定)	理学療法士、町職員	
1年後	事後評価 (体力測定)	理学療法士、町職員	
1年6か月後	事後評価 (体力測定)	理学療法士、町職員	

※以降6か月ごとに事後評価（体力測定）を実施する。

9月～：
毛呂山町ゆずっこ元気体操スタート



環境人材の違いにより、運営を工夫する



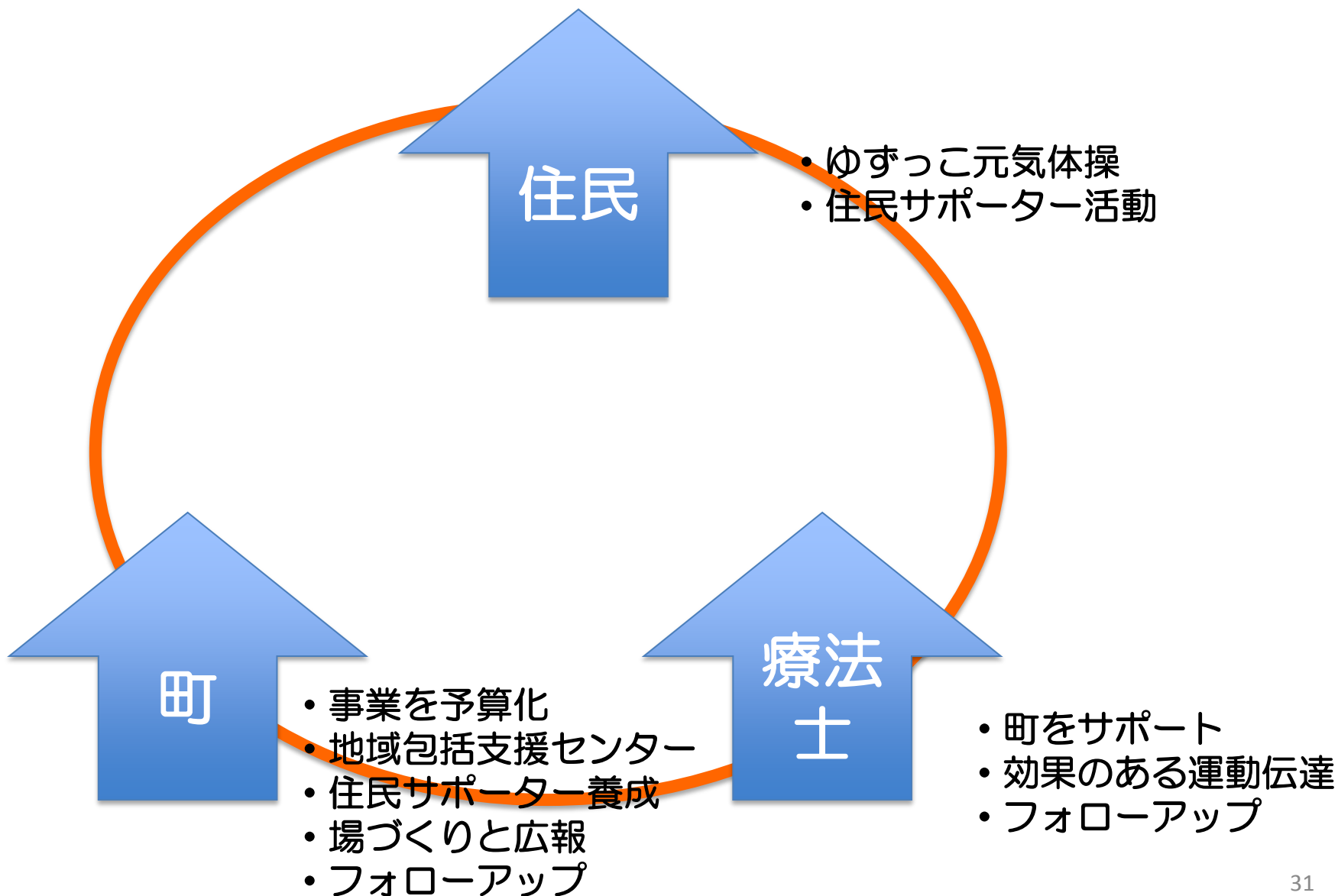
スタッフ・事業内容のフォローアップ



モデル事業で経験したこと

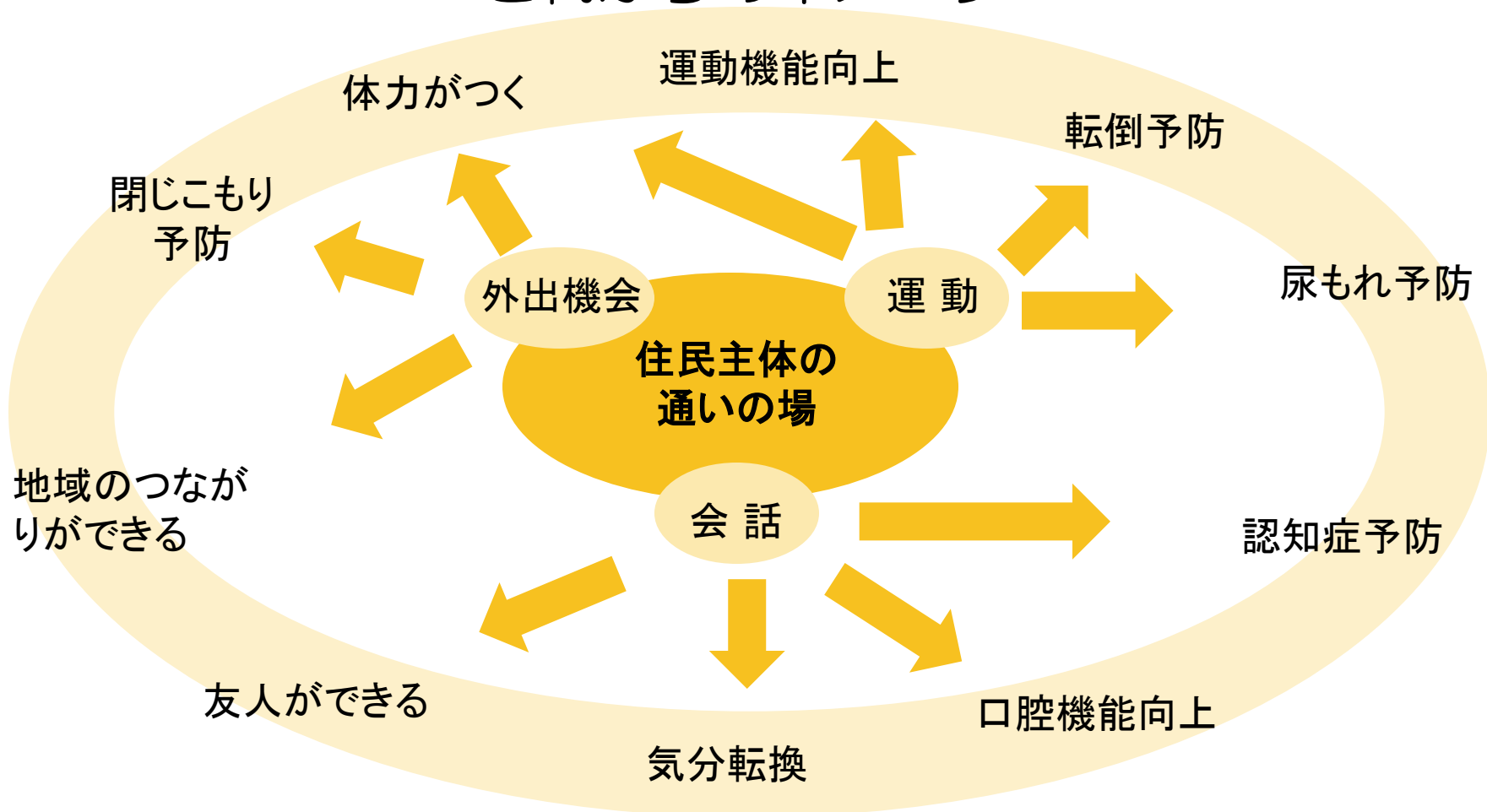
1. 広域アドバイザーからの学びを元に、埼玉版への昇華
2. 県職員から町職員への熱意の伝搬
3. 資源を活かして、新しい仕組みの提案
4. 現場レベルでのトライアンドエラーの繰り返し
5. 経験から派生して、新たな工夫が生まれる
6. モデル事業の経験を共有（他市の職員・療法士へ）
7. 手伝ってくれる人を増やす作業

役割分担・協力内容が明確に



事業イメージが固まってくる

これからのイメージ



介護予防サポーター（ゆずフィット） 養成講座

全8回シリーズ

- 自己紹介・介護予防総論・体力測定
- 準備運動・ゆずっこ元気体操・ともろー体操
- ロールプレイ（ゆずフィット役・参加者役）
- グループワーク
- サポーターの体験談
- コミュニティデザイン（現在の地域の問題とそれを解決するために自分は何ができるか・地域資源）
- 実際の地域活動について

（他地域での介護予防教室の例 等）

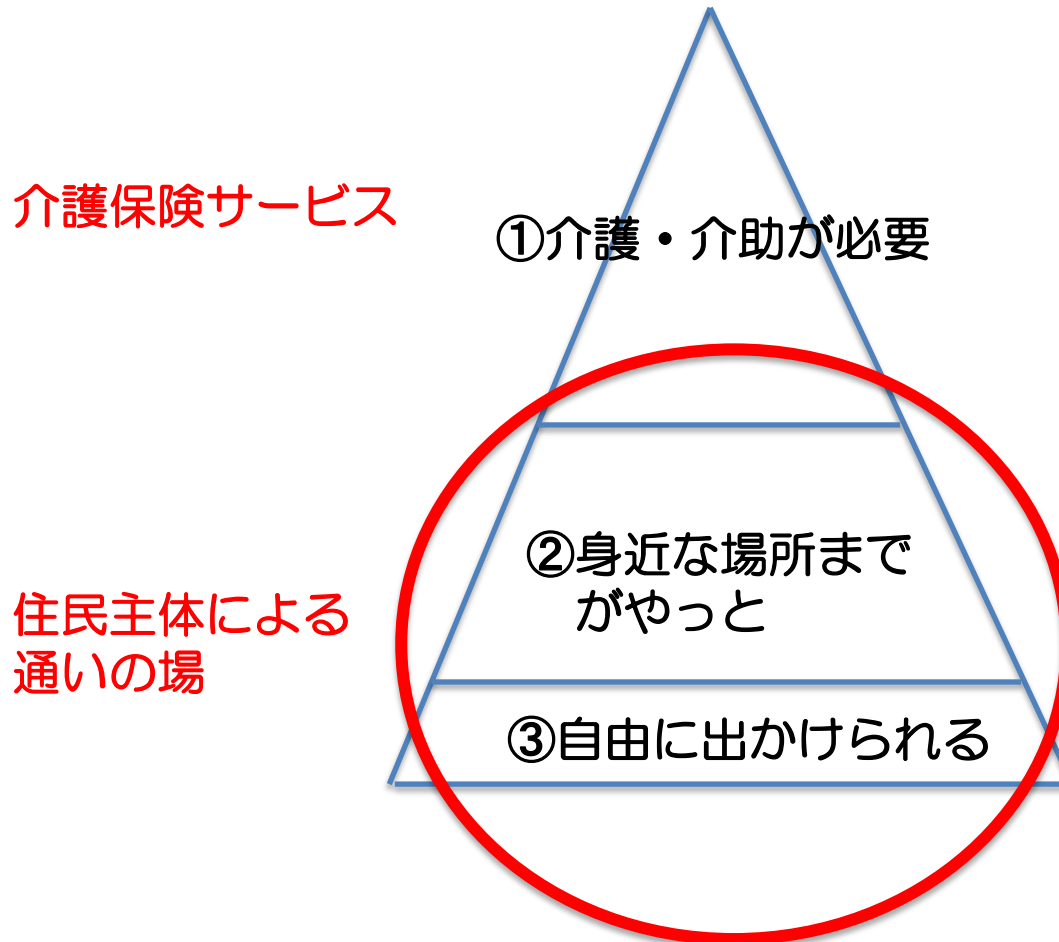


地域住民が
介護予防について
学びます！

養成講座の中身・住民への働きかけの方法が徐々に進化

	内容	目的
1	<ul style="list-style-type: none"> スケジュール説明 自己紹介 介護予防の必要性 運動の効果 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の意欲を確認する。 国や地域での社会的課題（高齢化？No！要介護認定者数の抑制）と解決策（効果のある運動）の提示による目標（介護予防・健康寿命の延伸）を共有する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防の効果（他地域での実践例） 体力測定 地域での運動の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防の効果を理解する。 地域での活動への理解を深める 体力測定の内容と方法を理解する。 本地域での活動（運動）の内容を知る。
3	<ul style="list-style-type: none"> 運動の実践 	<ul style="list-style-type: none"> 本地域で実施している運動の内容と方法を理解する。
4	<ul style="list-style-type: none"> RP&GW サポーターの役割 町の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防サポーターとしての活動を実感する。 町の本気度を伝える。 運動の方法を理解し、実践する。
5	<ul style="list-style-type: none"> RP&GW 運動の種類（他の運動の説明） 	<ul style="list-style-type: none"> サポーターとしての自覚を高める。 運動の方法を理解し、実践する。 住民主体の通いの場での運動の効果を伝える。 自宅で習慣化できる運動を紹介する。
6	<ul style="list-style-type: none"> RP&GW 現役サポーターの話 地域での活動について 	<ul style="list-style-type: none"> サポーターとしての自覚を高める。 地域資源について調査し、活用してできそうな活動のアイデアを出す。
7	<ul style="list-style-type: none"> 体力測定（2回目） RP&GW 	<ul style="list-style-type: none"> 体力測定の目的について理解する。 サポーターとしての自覚を高める。 運動の方法を理解し、実践する。
8	<ul style="list-style-type: none"> 全体の流れのおさらい 総評と感想 今後の意気込みなど 修了証授与 活動の場の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の方法を理解し、実践する。 サポーターとしての自覚を高める。 今後の活動について考える。

毛呂山町の介護予防対象者 (将来イメージ)



モデル事業で経験したこと

1. 広域アドバイザーからの学びを元に、埼玉版への昇華
2. 県職員から町職員への熱意の伝搬
3. 資源を活かして、新しい仕組みの提案
4. 現場レベルでのトライアンドエラーの繰り返し
5. 経験から派生して、新たな工夫が生まれる
6. モデル事業の経験を共有（他市の職員・療法士へ）
7. 手伝ってくれる人を増やす作業

市町村

- ・地域ケア会議
- ・介護予防事業
- ・認知症対策
- ・医療介護連携
- ・生活支援

に療法士を活用
(現場・制度設計)

営業

12月20日

療法士

- ・地域ケア会議に参画できる
- ・介護予防事業を運営できる
- ・認知症対策に参画できる
- ・医療介護連携を推進できる
- ・生活支援に助言できる

療法士を
把握・組織化・育成

育成

12月23日

埼玉県地域リハビリテーション支援体制整備事業

埼玉県三療法士会

12月20日：
市町村への営業 川越比企・西部 圏域
10市町村 17地域包括 参加中
半数の市町村から協力要請依頼



12月23・3月14日：療法士の人材育成・療法士のネットワーク構築

参加548名（PT397名、OT111名、ST26名）

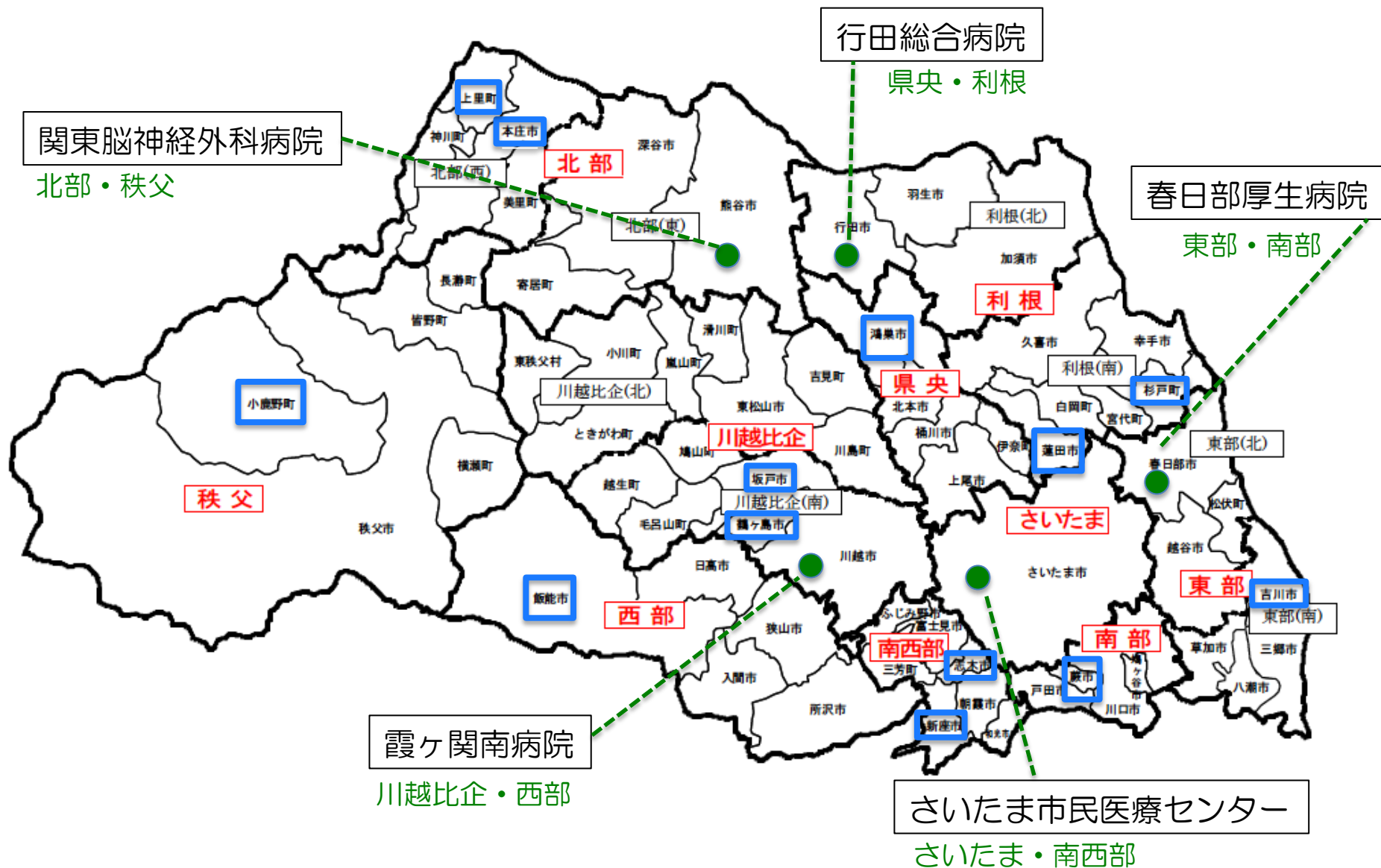
- 1 地域包括ケアシステム
- 2 地域リハ支援体制整備事業
- 3 市町村からの依頼の実際
- 4 派遣の手続き、事務処理
- 5 療法士への期待
- 6 派遣の実際（介護予防・地域ケア会議）
- 7 その他望まれる役割や知っておくべき方法
- 8 地域包括支援センターの普及啓発事業



モデル事業で経験したこと

1. 広域アドバイザーからの学びを元に、埼玉版への昇華
2. 県職員から町職員への熱意の伝搬
3. 資源を活かして、新しい仕組みの提案
4. 現場レベルでのトライアンドエラーの繰り返し
5. 経験から派生して、新たな工夫が生まれる
6. モデル事業の経験を共有（他市の職員・療法士へ）
7. 手伝ってくれる人を増やす作業

地域づくりによる介護予防推進支援事業 事業に参加する13市町村



リハ職の役割（私見）

介護予防事業（ゆずっこ元気体操）

- 開始時：体力測定と結果説明
気づき「このままではまずい」



- 運動の効果の説明
- 運動実施

- 3ヵ月後：体力測定
生理的喚起・情動的喚起・
遂行行動の達成＋言語的説得



セルフエフィカシー向上

＋ 効果の実感



行動変容「もっと続けよう」

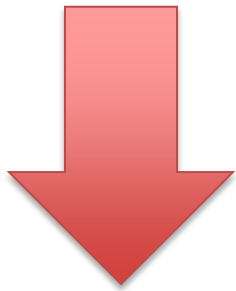
住民に
「やりたい」
と言わせる



リハ職の役割（私見）

介護予防サポーター養成講座

- 開始時「自分が元気に」なりたい



- 運動指導
- ロールプレイ
- グループワーク
- コミュニティデザイン

自分とまちの
未来を
デザインする

- 終了時「周りも元気に」したい



最小セット

国平成27年度事業
住民による介護予防推進事業
(住民運営による通いの場づくり)

- ★市町村担当者と
アドバイザーの顔合わせ
- ★都道府県研修

6回の現地支援

- ★成果報告会

1ヶ所の通いの場立ち上げを想定

【県の予算で実施】

複数の通いの場 立ち上げには
介護予防ボランティア養成を
同時進行で行うと効果的。

- 【介護予防ボランティア養成講座】
全8回シリーズ内容 2時間/週 (参考資料)
- 自己紹介・介護予防総論・体力測定
 - 準備運動・介護予防体操・整理体操
 - ロールプレイ (ボランティア役・参加者役)
 - グループワーク
 - サポーターの体験談
 - コミュニティデザイン
(現在の地域の問題と
それを解決するために
自分は何ができるかディスカッション
既存の地域資源)
 - 実際の地域活動について
(他地域での介護予防教室の例 等)
- ※複数の通いの場を立ち上げる場合は、
必要に応じて、6回以上の現地支援

【市の予算で実施】

他の事業から予算の付け替え または
(新) 地域リハ活動支援事業費を活用

住民主体の介護予防の推進 平成27年度モデル事業 現地支援の内容案 (6回+α)

1回目：市町村での事業説明

- ①事業の全体像説明、②事業の効果等説明

2回目：自主グループ開始時の体力測定と説明等

- ①参加者に介護予防の必要性説明
- ②体力測定・日常生活調査の説明と実施

3回目：自主グループ開始時の体力測定結果説明

- ①体力測定結果説明
- ②自主グループ継続の意味と体力測定結果から見たお薦めアドバイス

4回目：自主グループ実施中のフォローアップ

- ①通いの場を続ける意味や効果、他地域の取り組みを説明

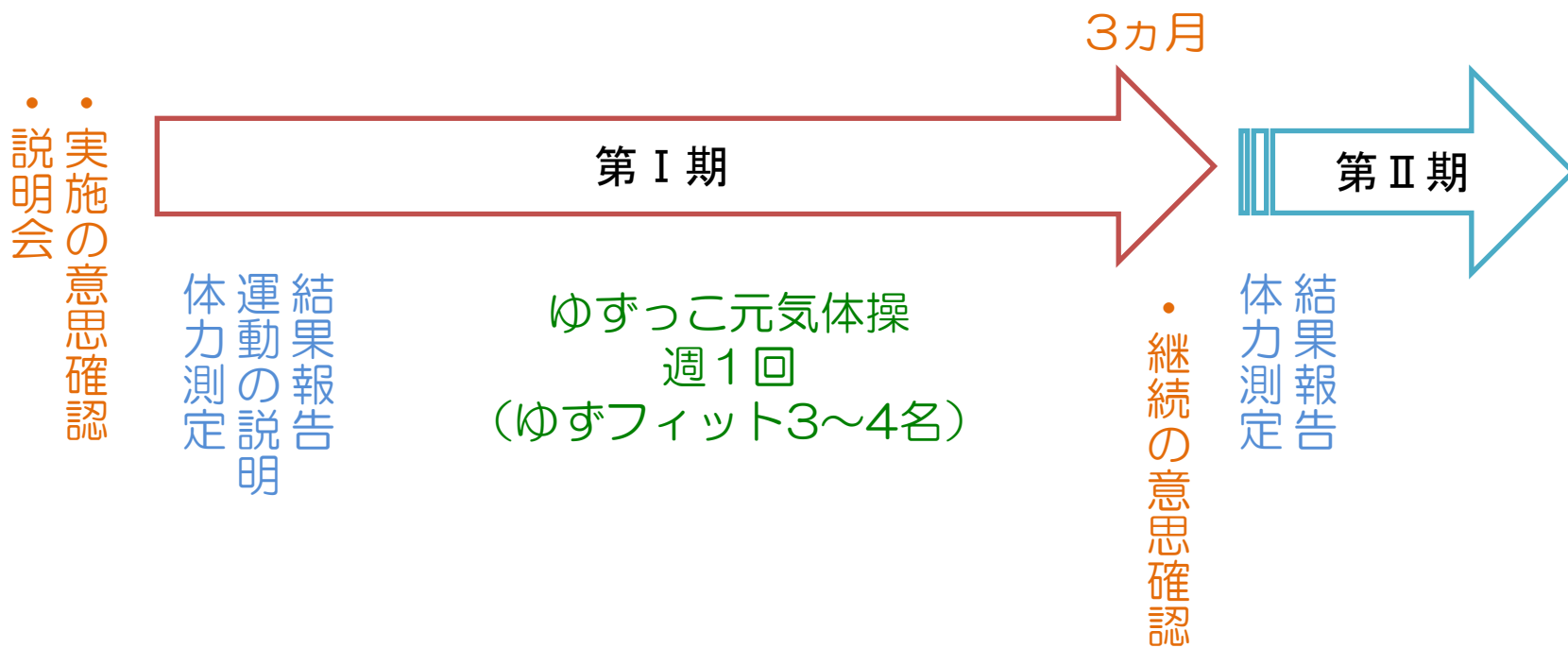
5回目：3ヶ月経過後の体力測定と説明等

- ①参加者に介護予防の必要性説明
- ②体力測定・日常生活調査の説明と実施

6回目：3ヶ月経過後の体力測定結果説明

- ①体力測定結果説明
- ②自主グループ継続の意味と体力測定結果から見たお薦めアドバイス

ボランティアを活用した 自主グループ立ち上げ支援（毛呂山町）



- 運営は住民
- 介護予防サポーター（ゆずフィット）が運動指導
- 毛呂山町と理学療法士がお手伝い

最小セット

国平成27年度事業
住民による介護予防推進事業
(住民運営による通いの場づくり)

- ★市町村担当者と
アドバイザーの顔合わせ
- ★都道府県研修

6回の現地支援

- ★成果報告会

1ヶ所の通いの場立ち上げを想定

【県の予算で実施】

複数の通いの場 立ち上げには
介護予防ボランティア養成を
同時進行で行うと効果的。

【介護予防ボランティア養成講座】

全8回シリーズ内容 2時間/週 (参考資料)

- 自己紹介・介護予防総論・体力測定
- 準備運動・介護予防体操・整理体操
- ロールプレイ (ボランティア役・参加者役)
- グループワーク
- サポーターの体験談
- コミュニティデザイン
(現在の地域の問題と
それを解決するために
自分は何ができるかディスカッション
既存の地域資源)
- 実際の地域活動について
(他地域での介護予防教室の例 等)

※複数の通いの場を立ち上げる場合は、
必要に応じて、6回以上の現地支援

【市の予算で実施】

他の事業から予算の付け替え または
(新) 地域リハ活動支援事業費を活用

住民主体の通いの場をつくる実務者研修

【住民主体の通いの場を創るための手順】

- 現地支援の流れ
- 市町村職員との協力体制
- 住民との協力体制
- キーパーソンを見つける、つくる
- 会場、運営についての配慮
- 体力測定の実施について
- 事務的準備内容

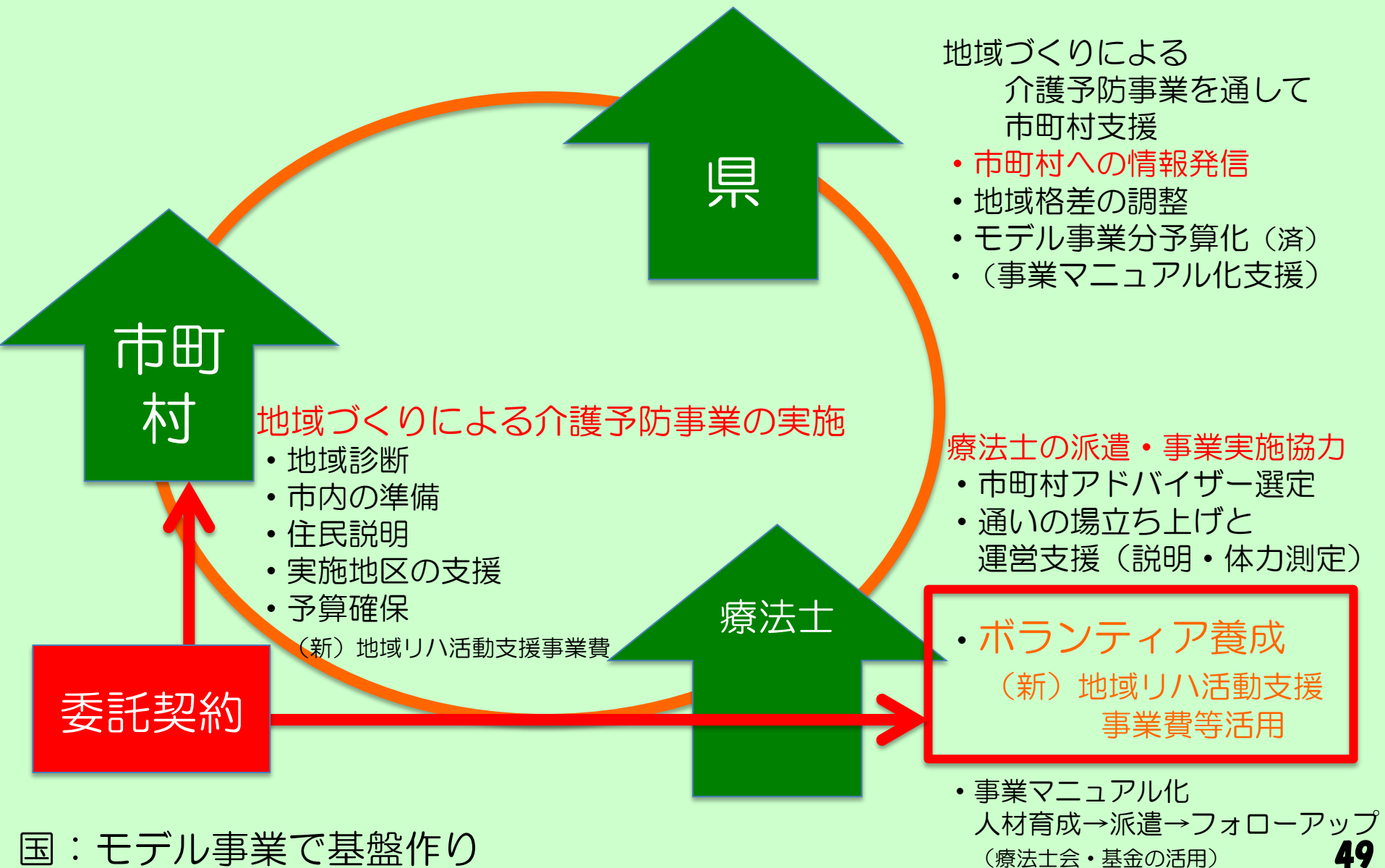


【ボランティア養成講座（8回）の進め方】

- 養成講座の流れ・伝える内容
- 市町村職員との協力体制
- 住民の活動・参加の意欲づくり
- キーパーソンを見つける・つくる
- 会場・運営についての配慮
- プレゼンテーション資料と説明内容
- ロールプレイとグループワーク
- 事務的準備内容



埼玉県の介護予防 協力体制

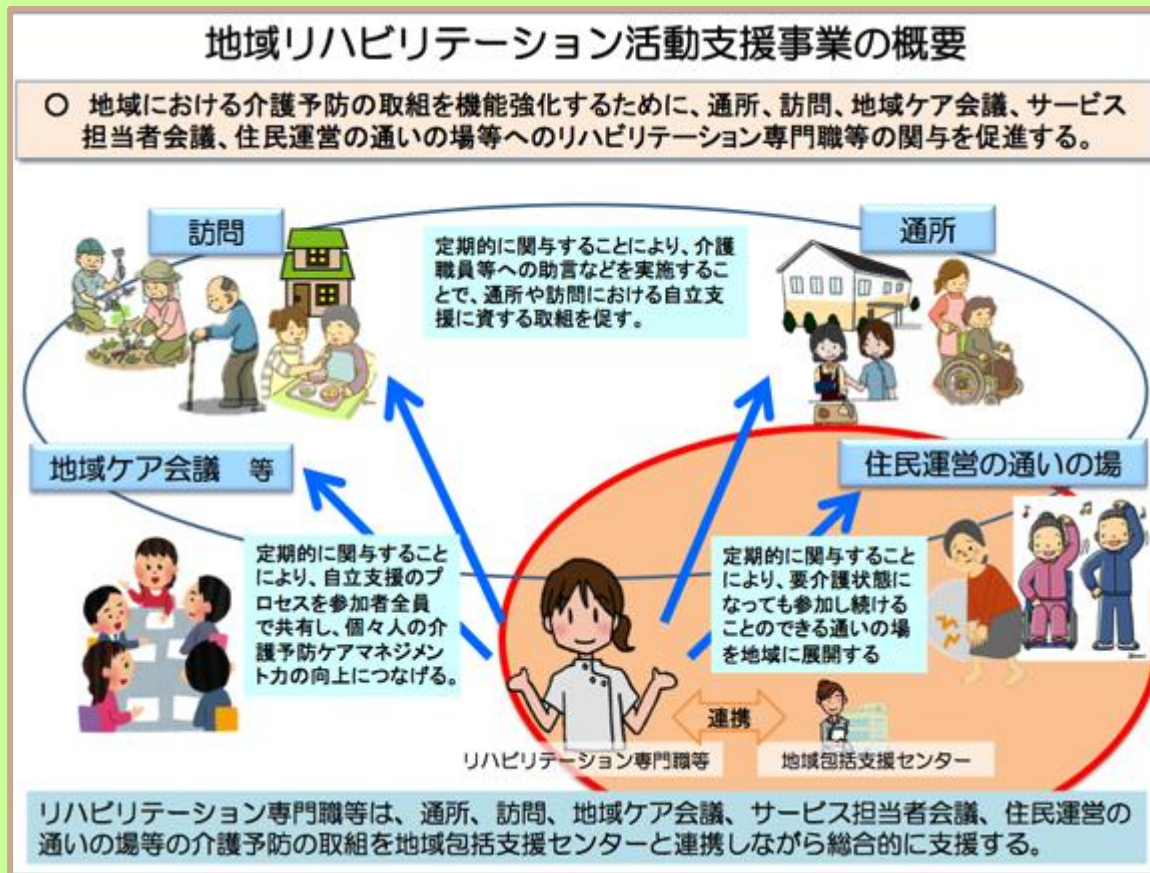


- 国の提示した仕組み
- 埼玉県独自の仕組み
- 県密着アドバイザーとしての取り組み

ちょっとだけ、苦しかったこと・・・

平成26年度 派遣等の実績

□派遣回数 344件 (延545名)



地域ケア会議
事例検討会等

43件
(延63名)

その他の会議
研修会等

61件
(延89名)

介護予防教室
等
(体操教室等)

175件
(延255名)

介護予防
ボランティア
養成講座

65件
(延138名)

□調整等 731件

- 出張打合せ：252
- 電話での事例等相談：16
- 電話・メールでの打合せ4：63

上記の連絡調整・打合せ

県の担当課



23

障害者福祉推進課

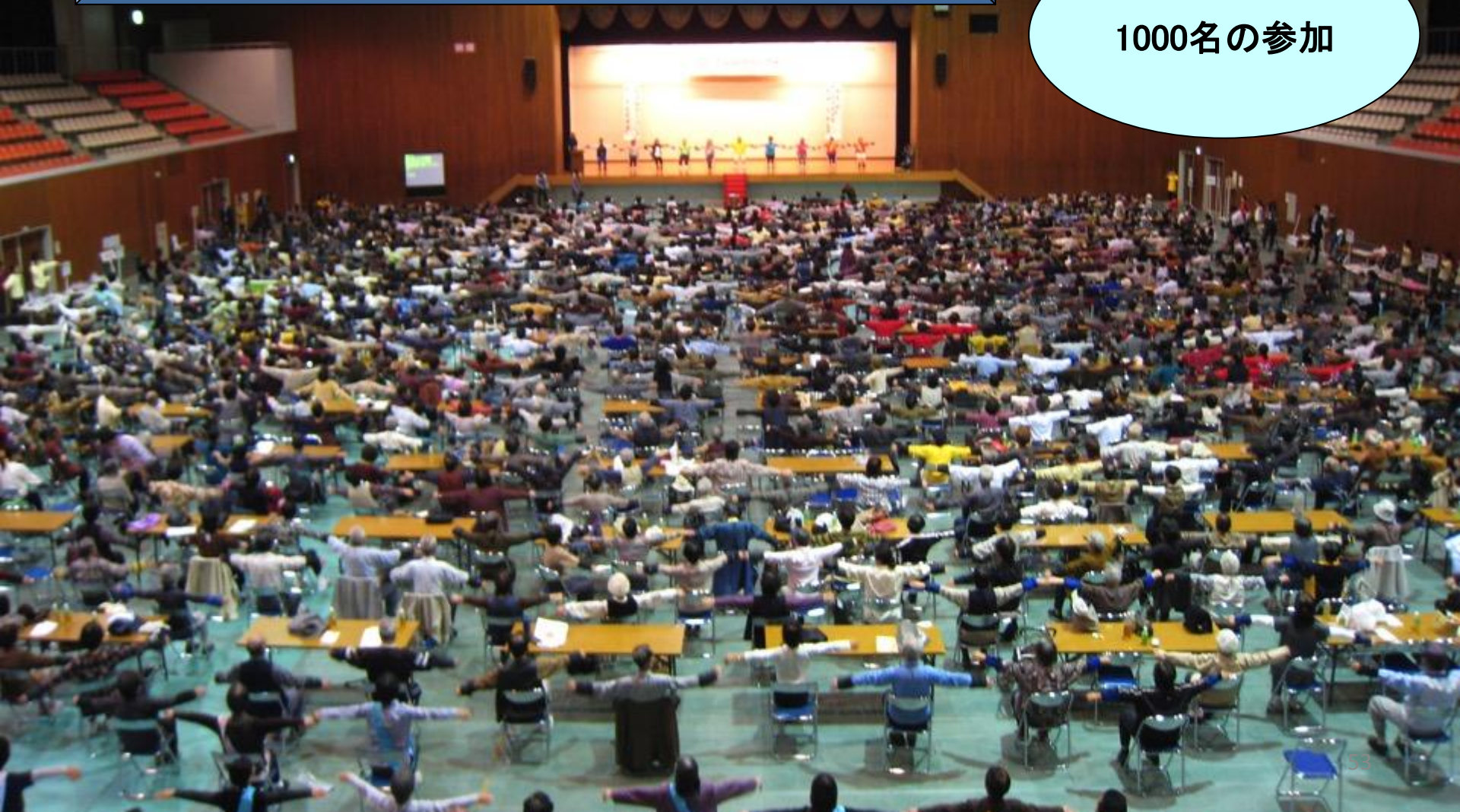
地域リハビリテーション支援体制整備事業

迷った時に元気をもらい続けた写真

第5回いきいき百歳大交流大会

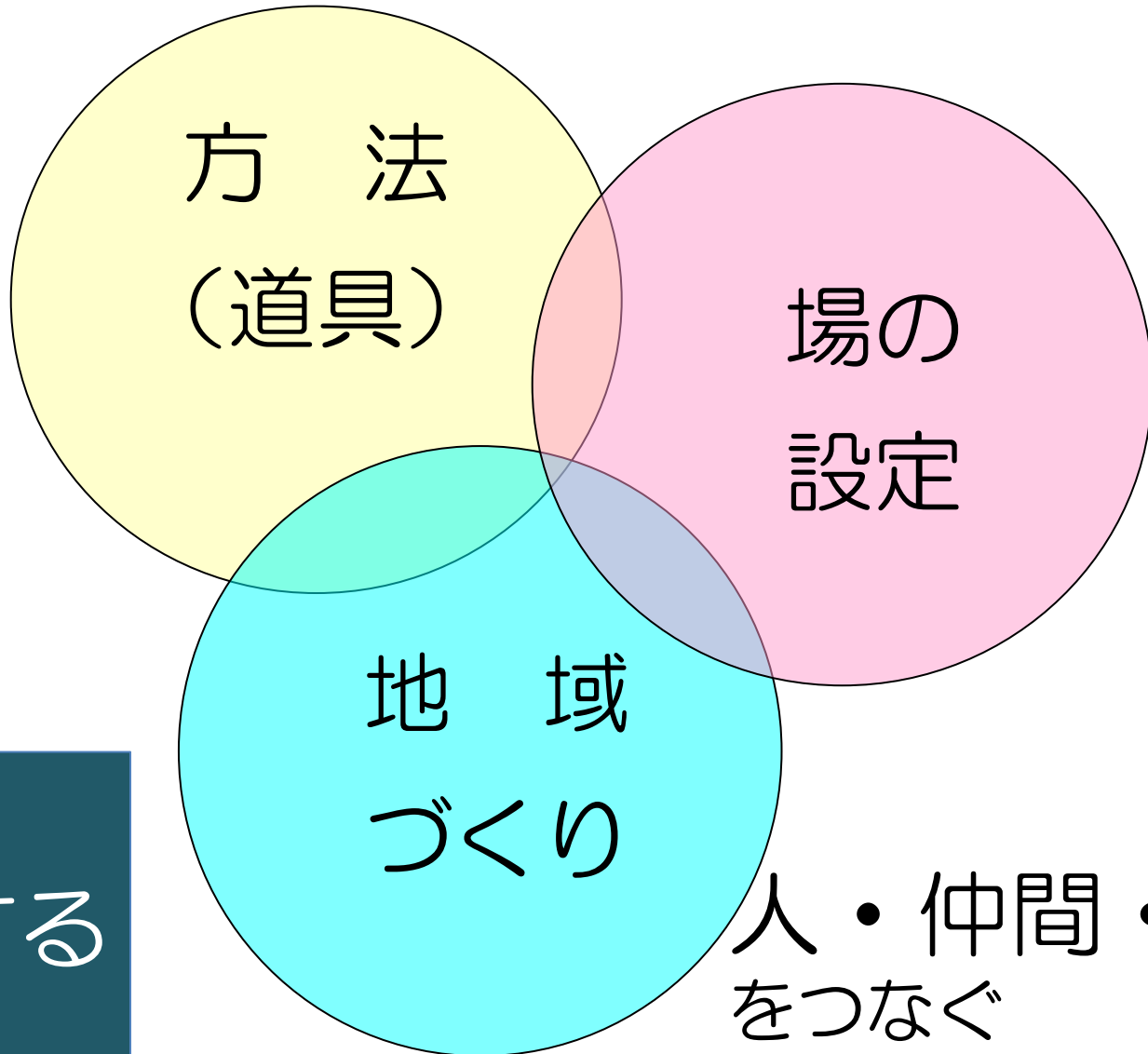
平成20年10月29日 開催

1000名の参加



モデル事業に参加したからこそ わかった介護予防の全体像

運動
体操
などの
引き出し
を多く
する



運営
環境
の工夫

地元を
元気にする
戦略

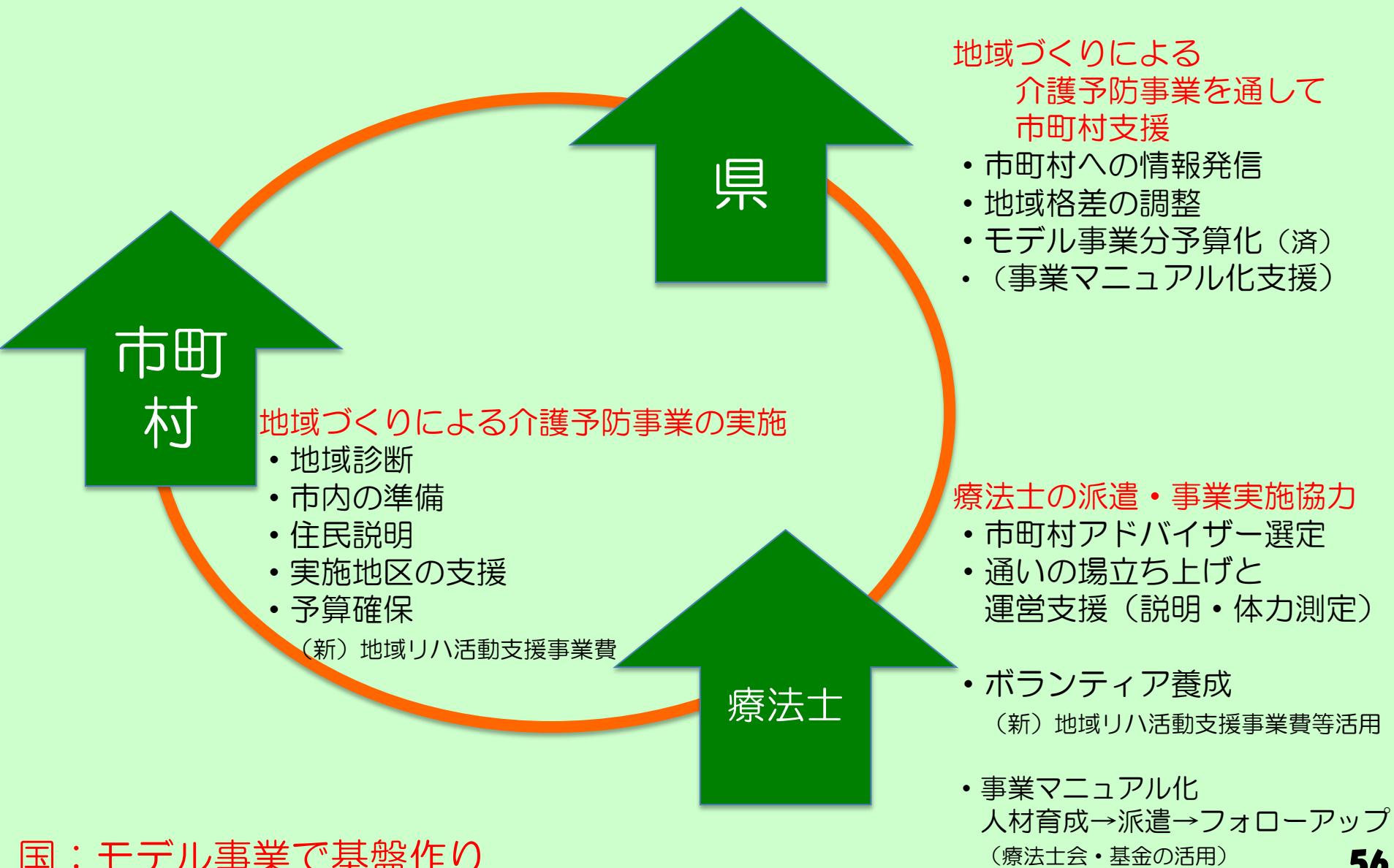
人・仲間・情報
をつなぐ
(住民・行政・市内事業所)

年間スケジュール（予定）

		市町村		理学療法士	
		（県と市町村で行う業務）	（市町村が主で行う業務）	市町村アドバイザー	
26 年度	2月	市町村意向調査（県→市町村）			
	3月	★事前説明会（3/18） 参加市町村決定	地域診断		
27 年度	4月	★キックオフ研修 （4/24、埼玉県教育会館）		住民への普及に向けた方策検討	
	5月	国事業の参加市町村最終決定（5市町）			5月16日療法士研修会（終日） ↓スケジュール調整
		★アドバイザー合同会議 （5/29午前、すこやかプラザ） 市町村担当者とアドバイザーの 顔合わせ、グループワーク、 国会議伝達			★アドバイザー合同会議 （5/29午前、すこやかプラザ）
	6月	★モデル事業先進地（毛呂山町）視察		★視察 ボランティア養成	
	7月	★都道府県研修 （7/30、さいたま共済会館）	（アドバイザーから市町へ事業効果説明）←	1回目現地支援 （都道府県研修前に実施）	
	8月	先行市町による発表 立ち上げに向けた課題解決など	住民説明	★都道府県研修（7/30）	
	9月		通いの場の立ち上げ、体力測定	2・3回目現地支援	
	10月	★アドバイザー合同会議 立ち上げ状況の発表、国会議伝達	通いの場の普及	4回目現地支援	
	11月				
	12月		3か月後体力測定	5・6回目現地支援	
1月	★成果報告会		★成果報告会		
2月		通いの場の普及、 立ち上げ後のフォロー			
3月	国会議伝達（県→市町村）				

※「★」は埼玉県独自の取組み

埼玉県の介護予防 協力体制



図：モデル事業で基盤作り

謝辞

- 他県の方の援助があったからこそ、先に進めました。
- このモデル事業に参加させて頂いたおかげで、県内の多くの人と知り合えました。
- このモデル事業は、既存の様々な事業や課題を解決しようとする時の横串になりました。
- 27年度事業が、より効果的に進む事を祈っています。

資料

埼玉県地域リハビリテーション推進協議会

順不同（敬称略）

	所属等	職名	氏名	
会長	医療法人 真正会	理事長	齊藤 正身	学識経験者
	埼玉県医師会	副会長	湯澤 俊	関係団体
	埼玉県医師会	地域包括ケアシステム 推進委員会委員長	小川 郁男	関係団体
	埼玉県歯科医師会	常務理事	深井 稜博	関係団体
	埼玉県理学療法士会	会長	清宮 清美	関係団体
	埼玉県作業療法士会	会長	星 克司	関係団体
	埼玉県言語聴覚士会	会長	清水 充子	関係団体
	埼玉県市町村保健師協議会	会長	村田 早苗	関係団体
	埼玉県介護支援専門員協会	副理事長	石原 雅哉	関係団体
	シニアサポートセンター 白菊苑	管理者	桜井浩平	地域包括 センター
	埼玉県相談支援専門員協会	副代表	日野原 雄二	関係団体
副会長	埼玉県福祉部	副部長	樋口 勝啓	県
	埼玉県保健医療部	副部長	関本 建二	県
	埼玉県総合リハビリテーション センター	福祉局長	山畠 則義	県
顧問	医療法人 共和会 小倉リハビリテーション病院	名誉院長	浜村 明德	—

任期：平成26年4月1日～平成28年3月31日

[実施スケジュール]

H25年 9月

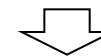
協議会の設置

県、県医師会、県療法士会、市町村等で構成



サポートセンターの
指定

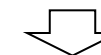
・地域リハビリテーション・ケアサポートセンターの指定 県内3地域



H25年12月

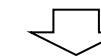
モデル事業の実施

・地域資源の調査・情報収集・提供 県内3地域で
モデル事業を実施
・地域の各種相談機関等への支援



事業実施
効果検証

・事業実施の評価
・課題等の整理



H26年 4月

全県へ普及

・サポートセンターを二次医療圏毎に指定 県内5地域で
事業を実施
・地域の実情に即した支援の展開

地域リハビリテーション支援体制整備事業

平成26年度

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
埼玉県障害者福祉推進課	推進協議会 [・サポートセンター指定の協議 ・平成25年度事業の報告 ・平成26年度事業計画] サポートセンターの指定 サポートセンターへの業務委託 協力医療機関等の指定（随時）	市町村訪問		推進協議会（開催時期未定） [・平成26年度事業の報告等] 業務委託に係る実績報告書の徴収
埼玉県総合リハビリテーションセンター	サポートセンター連絡会議 [・事業の進め方の検討、決定] 各サポートセンターへの助言 市町村等への説明会	サポートセンター連絡会議 [・事業進捗状況報告 ・実施事業の課題整理]	療法士養成 （12月23日） 全体研修会（開催時期未定）	サポートセンター連絡会議 [・事業報告の素案検討 ・実施事業の結果分析]
地域リハビリテーション・ケアサポートセンター	相談業務（技術的助言） 人材（リハ職員）派遣業務 協力医療機関等の検討・連絡調整等	指導研修会（各センターごとに年1回以上実施）		

療法士会

6月21・22日：療法士研修 推進リーダー養成		県内4ブロックで研修開催	県内4ブロックで研修開催
----------------------------	--	--------------	--------------

サポートセンター
＋
協力機関

	7月2日：事業説明会・交流会（川越比企・西部） 8月26日：事業説明会・交流会（南西部・さいたま） 9月17日：事業説明会・交流会（北部・秩父）	10月：リサーチと結果配布（全体） 10月31日：事業説明会・交流会（南部・東部） 11月18日：事業説明会・交流会（県央・利根）	
川越市 サポーター養成・教室			
毛呂山町 ボランティア養成・教室			

1 埼玉県地域リハビリテーション推進協議会の開催

日時等:平成26年5月9日 県民健康センター

構成等:会長:医療法人真正会 齊藤正身理事長 顧問:小倉リハビリテーションセンター病院 浜村明德名誉院長
 構成:学識経験者、県医師会、県歯科医師会、県理学療法士会、県作業療法士会、県言語聴覚士会、
 県市町村保健師協議会、県介護支援専門員協会、地域包括支援センター代表、障害者相談支援センター代表、
 埼玉県(福祉部・保健医療部・総合リハビリテーションセンター)

議題:1 地域リハビリテーション・ケアサポートセンターの指定について
 2 平成25年度 of 取組状況等について
 3 平成26年度事業計画(案)について
 4 講演「地域リハビリテーション推進に関するいくつかの課題」
 小倉リハビリテーション病院名誉院長 浜村 明德氏

2 地域リハビリテーション・ケアサポートセンターの指定

病院名	所在市町村	担当圏域	担当市町村	指定年月日
春日部厚生病院	春日部市	南部・東部	川口市・蕨市・戸田市 春日部市・草加市・越谷市・八潮市・三郷市・吉川市・ 松伏町	H26.7.29
さいたま市民医療センター	さいたま市	南西部・さいたま	朝霞市・志木市・和光市・新座市・富士見市・ふじみ野市・ 三芳町 さいたま市	H26.5.9
行田総合病院	行田市	県央・利根	鴻巣市・上尾市・桶川市・北本市・伊奈町 行田市・加須市・羽生市・久喜市・蓮田市・幸手市・ 白岡市・宮代町・杉戸町	H26.7.29
霞ヶ関南病院	川越市	川越比企・西部	川越市・東松山市・坂戸市・鶴ヶ島市・毛呂山町・越生町・ 滑川町・嵐山町・小川町・川島町・吉見町・鳩山町・ ときがわ町・東秩父村 所沢市・飯能市・狭山市・入間市・日高市	H26.5.9
関東脳神外科病院	熊谷市	北部・秩父	熊谷市・本庄市・深谷市・美里町・神川町・上里町・ 寄居町 秩父市・横瀬町・皆野町・長瀨町・小鹿野町	H26.5.9

3 協力医療機関の指定

平成27年4月1日現在

圏域	医療機関	老人保健施設	合計
南部	6	1	7
東部	14	5	19
南西部	5	3	8
さいたま	13	3	16
県央	2	5	7
利根	2	1	3
川越比企	15	5	20
西部	15	1	16
北部	3	2	5
秩父	3	2	5
合計	78	28	106

4 市町村説明会の開催

圏域名	実施年月日	会場	出席者数
川越比企・西部	H26.7.2	霞ヶ関南病院	104
さいたま・南西部	H26.8.26	さいたま市文化センター	82
北部・秩父	H26.9.17	熊谷市立商工会館	77
東部・南部	H26.10.31	東部地域ふれあい拠点施設	114
県央・利根	H26.11.18	鴻巣市文化センター	112

5 各サポートセンターの活動状況

(1) 派遣等の実績

平成27年3月末現在

	介護ボランティア 養成講座等	介護予防教室等 (体操教室等)	地域ケア会議・ 事例検討会等	その他の会議・ 研修会等	派遣合計
霞ヶ関南病院	65	130	10	14	219
さいたま市民医療センター		7	17	16	40
関東脳神経外科病院		16	10	8	34
春日部厚生病院		17	4	8	29
行田総合病院		5	2	15	22
合計	65	175	43	61	344

(2) 連絡会議の開催状況

実施年月日	議題等
H26.6.9	<ul style="list-style-type: none"> 取組内容、課題と方策 市町村説明会の実施 委託契約に係る事務手続き
H26.9.25	<ul style="list-style-type: none"> 市町村説明会の実施結果 地域リハ事業の派遣実績 療法士研修・全体研修会
H27.2.13	<ul style="list-style-type: none"> 市町村説明会・療法士研修会の実施結果 地域リハ事業の派遣実績 地域リハ事業報告案
H27.3.23	<ul style="list-style-type: none"> 療法士研修会の実施結果 平成27年度事業計画案 平成26年度事業報告案

6 療法士研修会の実施

(1) 研修会の概要

	実施年月日	会場	参加者					研修内容
			PT	OT	ST	その他	計	
第1回	26. 12. 23	彩の国すこやかプラザ	251	59	19	6	335	1 地域包括ケアシステム 2 地域リハ支援体制整備事業 3 市町村からの依頼の実際 4 派遣の手続き、事務処理 5 療法士への期待 6 派遣の実際 7 その他望まれる役割や知っておくべき方法 8 地域包括支援センターの普及啓発事業
第2回	27. 3. 14	埼玉県立大学	146	52	7	8	213	
合計			397	111	26	14	548	

(2) アンケート結果

日時	地域ケア会議等へのリハビリ専門職の参加状況											今後協力してみたい内容						
	地域ケア会議				施策検討会議		地域包括支援センターとの連携					認知症初期集中支援チーム	地域ケア会議	介護予防ボランティア養成講座	介護予防教室	自主グループへの支援	普及啓発事業	
	参加している		参加していない	相談を受けている	参加している	参加していない	参加している				参加していない							相談を受けている
	地域ケア会議	個別ケア会議					介護予防ボランティア養成講座	普及啓発事業	自主グループへの支援	その他								
26. 12. 23	11	7	299	5	8	311	9	20	13	36	245	18	51	187	149	211	119	113
27. 3. 14	7	2	181	2	1	190	7	4	7	15	155	12	60	124	89	124	74	83

埼玉県総合リハビリテーションセンターの取組み

□□ □ □ □ □ □ □ □

埼玉県総合リハビリテーションセンター□

□サポートセンター連絡会議の開催□

- 各サポートセンター間の情報交換□
- 各サポートセンターの運営状況や課題等の取りまとめ□
- 地域リハビリテーション推進協議会との連絡調整□

サポートセンターの支援□

- 各サポートセンターとの情報交換、情報提供、相談対応□
- 3士会との連携により各サポートセンターの実施するモデル事業を支援□
- 各サポートセンターが開催する連絡会議への出席□

支援体制の調査・分析□

- 地域包括支援センターや障害者相談支援センターに対して地域リハのニーズ調査を実施□
- 3士会との連携により地域リハ資源の情報を収集・提供□
- 各サポートセンターが実施するモデル事業の実施結果を分析

地域リハビリテーション支援体制整備事業 と 地域づくりによる介護予防推進事業 スケジュール □

	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
障害者福祉 推進課事業□	推進協議会（平成27年4月23日） [・平成26年度事業の報告 ・平成27年度事業計画]		推進協議会（開催時期未定） [・成27年度事業の中間報告 ・成28年度事業の方向性等]	
埼玉県	協力医療機関等の指定 （現在：106か所） サポートセンター連絡会議 [・事業の実施予定報告 ・実施事業の課題整理]	サポートセンター連絡会議 [・事業進捗状況報告 ・実施事業の課題整理]	全体研修会（開催時期未定） ※対象者は療法士を予定 [※地域医療介護総合確保基金で療法士研修に係る予算要求中。予算化されれば理学療法士会に委託予定。]	（目標：200か所程度） サポートセンター連絡会議 [・事業報告の素案検討 ・実施事業の結果分析]
	各サポートセンターへの支援・助言	→		
	市町村等への個別訪問等	→		
		[・地域ケア会議、介護予防事業等へのリハ職員関与の促進 ・リハ職員派遣費用の予算化、過渡的利用の派遣調整□]		
地域リハビリテーション・ケアサポートセンター	相談業務（技術的助言） 人材（リハ職員）派遣業務	→		
	協力医療機関連絡調整会議	→		
		研修会（年1回以上実施） ※対象者は地域包括等を予定		
		協力医療機関連絡調整会議		
地域包括 ケア課事業	地域づくりによる介護予防推進支援事業 [実施市町村決定等]	→		
		[アドバイザー（リハ職員）派遣等]		
		[成果報告会]		